



IBM with Red Hatで既存インフラをモダナイズする

アプリケーションをモダナイズ(近代化)すると聞くと、インフラストラクチャー、ビジネス・プロセス、ITスキルを含む大規模なトランスフォーメーションをイメージする方も多いかもかもしれません。しかし実際には、将来を見据えて投資している標準的なITシステムならば、既存のインフラストラクチャーやスキルセットを変更することなく、ビジネス・アプリケーションをモダナイズできます。業界ではこれを「インプレース・モダナイゼーション」と呼んでいます。

IBM Powerのユーザーにとっては、クラウド、コンテナ、自動化を活用するために、既存のミッション・クリティカルなシステムの信頼性や、セキュリティー、パフォーマンスを犠牲にする必要がないため、これは朗報と言えるでしょう。IBM Powerサーバーは、現在だけでなく、将来のアプリケーションもサポートできるように設計されており、新しい機能やパフォーマンスを導入利用する際に、ビジネスを中断することなく、簡単に拡張できます。これは特に、Red Hatのアプリケーションを利用する際に当てはまります。Red Hat Enterprise Linux (RHEL) と Red Hat OpenShift は、IBM Power Systems と非常に親和性が高いです。仮に、IBM Power Systemsを3年前に購入した場合でも、また、サーバーを3カ月後に追加する予定があっても、問題なく稼働できます。

IBM Powerを活用したオープン・ハイブリッドクラウドが、さらなる可能性を切り拓く

Red Hat OpenShiftはハイブリッド・クラウド、エンタープライズKubernetesプラットフォームとして、数千の企業に採用されています。オープンソースのKubernetesを実装したRed Hat OpenShiftは、ハイブリッド・クラウド・コンピューティングのメリットを、皆さんのビジネスにもたらします。プライベート・クラウドや既存のIBM Powerプラットフォーム、また、IBM CloudやAWS、Azure、Googleなどのパブリック・クラウド環境でも、クラウド・ネイティブなアプリケーションを簡単にデプロイしたり、管理できるようになります。Red Hat OpenShiftはハードウェアレイヤーを抽象化するため、基盤となるインフラストラクチャーに関係なく、コンテナ・インターフェースを活用できます。

Red Hat Enterprise Linuxや、Red Hat OpenShift、Red Hat Ansible Automation Platform などのテクノロジーを現在の環境に追加することで、既存のインフラをマイグレーション(新しい環境へ移管)せずに、効果的にインプレース・モダナイゼーションすることができます。また、Red Hat OpenShiftのコンテナ・ベースのプラットフォームは、アプリケーション開発サイクルの高速化や、カスタマー・エクスペリエンスの向上など、多くの新しい効力を生む原動力になります。なぜ、時間やコスト、リソースをインフラのモダナイズ(近代化)に費やす必要があるのか?

IBM Power:信頼できるパフォーマンス

皆さんは、何年も前から、クラウドやコモディティ・ベースのサーバーについて耳にしてきたと思います。しかし、それだけが未来への道ではありません。銀行やアパレル・ブランド、その他あらゆる企業にとって、ミレニアル世代が期待するパーソナライズされた、応答性の高いモバイル体験を提供するために、その変革をタイムリーに実現できるようにすることは非常に重要です。例えば、従来の銀行は、昨今台頭してきているデジタル・バンキングに対抗するために、何もせずに、何年も座して待っているわけにはいきません。新しいモバイル・アプリやデジタル・サービスを迅速に立ち上げる必要があり、住宅ローンの迅速な手続きやショッピング体験の向上といった新しいサービスを市場に投入するために、サード・パーティー・プロバイダーと提携する機会も増えてきています。それと同時に銀行は、それらのパートナーと共同作業する上で、既存のミッション・クリティカルなアプリケーションや機密データを管理するセキュアなシステムの、コンプライアンスやセキュリティを確保し続ける必要があります。そこには、どんなソリューションがありますか? Red HatをIBM Power上で稼働させることです。

Red Hat Enterprise Linux、Red Hat OpenShift、およびAnsible Automation Platformを既存のインフラに追加することで、銀行は既存のコア・ビジネスを実行しているセキュアなサーバー・プラットフォーム上で、次世代サービスの提供を開始することができます。このモダナイゼーションのコース・ケースには、リアルタイム決済システムや、オープン・バンキング、プライシング/リスク分析などが含まれます。これらのアプリケーションをクラウドに取り込むことで、ユーザー体験を向上させたり、消費者行動や欲求に関する新しい洞察を生み出せる新しいフィーチャー(機械学習や人工知能など)を導入する準備ができるようになります。

皆さんの既存の投資は明るい未来へとつながっています

IBM Powerサーバーは、信頼性、セキュリティ、スケーラビリティ、パフォーマンスなど、将来も必要とされる機能を備えています。アプリケーションをモダナイズする場合、インフラを入れ替える必要はありません。クラウド・ネイティブ・アーキテクチャーの優れた基盤をすでに皆さんは持っています。あとは、IBM PowerにRed Hatを活用するだけです。エンタープライズKubernetesや、コンテナ・ベースのマイクロサービス、ハイブリッド・クラウドのデプロイメント、インフラストラクチャーの自動化など、すべてが今すぐ手の届くところにあります。

IBMとRed Hatを活用すれば、皆さんの未来は明るく開かれたものとなるでしょう。クラウドやコンテナ、エンタープライズKubernetesへの新しい一歩を、既存の信頼できるハードウェアと一緒に切り拓いてみませんか。より詳細については、ホワイト・ペーパー「Red HatでIBM Powerの可能性を切り拓く(Unlock the possibilities of IBM Power with Red Hat)」を参照してください。

ホワイト・ペーパーを読む

→